

以前にも紹介したが、中学1年生の担任であり部活動の顧問であったI先生である。

この先生は、女性の保健体育の先生だった。よく真っ赤なジャージを着ていた。中学1年生のときの担任であり、3年間部活動の顧問の先生でもあった。

私は、ソフトテニス（軟式テニス・軟式庭球）部に入った。そこに登場したのが、私の担任である真っ赤なI先生であった。I先生は、学生時代にソフトテニスをやっていた方で、基本的なことを教えていただいた。

ただ、I先生は冬になるとスキー部の先生になってしまった。生徒を連れて毎週スキー場に行っていた。見捨てられた感のあるテニス部の私たちは、雪でテニスコートも使えず、毎日5kmのマラソンコースを走るだけだった。だが、結果的に冬の体力づくりをすることができ、私には持久力がついたのである。何が幸いするかわからない。

家に帰る時間も早く、時間があつたので、冬の間は、家でひたすら本を読んだ。それこそ読書に熱中したわけである。これも結果的によかつたと思う。少なからず、私が国語の先生になったことに影響を及ぼしているはずである。

I先生のおかげで、私は、福島支部大会、県北地区大会と優勝し、会津若松での県大会に出ることができた。県大会でも優勝する力はあつたはずであつたが、準々決勝で敗れてしまった。優勝したのが、私たちがいつも勝っている福島支部2位の学校だったので、複雑な気持ちになったことを今でも覚えている。県大会で負けてしまいI先生に申し訳なく思っている。I先生に出会っていなかったら、今まで続く私のテニス人生はなかつたかもしれない。感謝しかない。よもや、この梁川の地でI先生にお会いできるとは、何とも不思議な縁である。

中学時代の社会科担当であるS先生である。

この先生は若く、20代後半だった。中学1年生では社会と数学、3年生のときには再び社会を担当していただいた。私が、学校の先生になったのは、このS先生の影響であることは否定できない。授業はおもしろくわかりやすいものであつた。もともと社会好きだった私は、さらに社会が好きになっていった。

S先生は、昼休みには生徒と一緒に校庭でサッカーをしていた。そんな先生はS先生だけだった。私が中学2年生になるときに、S先生に担任してもらいたいと願つたのだが叶わなかつた。

私が入学した中学校は、当時、福島市内でたった3校の男子の長髪が認められた学校だった。それが私たちが2年生になるときに、他の学校と同じように坊主になってしまったのである。大ショックだった。坊主にするのが嫌で嫌で仕方がなかつた。

仕方なく春休みに、男子はみんな頭にバリカンを入れ坊主となつた。すると、先生の中にも坊主になつた方がいたのである。S先生である。S先生は、自分が坊主にした理由を何も語りはしなかつた。それでも、私たち生徒は、S先生が語らずとも、すべてを理解していた。

S先生には、私が福島市内で中学校の教員をしているときに何度もお会いすることができた。自分が教員になり、あの当時、S先生が私たちのためにどれほどの努力をしていたのかがわかつてきた。おもしろくわかりやすい授業には、それを創り出すS先生の陰の努力があつたのである。中学時代にS先生に出会えた自分の運のよさを褒めたいと思う。

梁川高校に勤めるようになり、まさかS先生のお世話になる日が来ようとは、これまた不思議な縁である。

(次号に続く)